

平成27年度 第2回過疎問題懇談会

○日時 平成28年3月14日(月) 16:00~18:00

○場所 中央合同庁舎4号館1214特別会議室

○出席者

(構成員) 宮口侗迪 座長、安藤周治 委員、飯盛義徳 委員、
岩崎憲郎 委員、小田切徳美 委員、佐藤宣子 委員、
本田節 委員、本田敏秋 委員、横道清孝 委員

(総務省) 原田地域力創造審議官、出口過疎対策室長、滝川地域政策課長、
黒瀬地域自立応援課長、野竹人材力活性化・連携交流室長、
織田村国土交通省地方振興課長

○議題

1. 過疎地域・過疎対策の概況について
2. 集落ネットワーク圏を担う人材の確保とつながりの構築に関する調査研究報告書について

(1) 説明事項等

議題1及び2について、事務局から配付資料に基づき説明を行った後、意見交換を行った。

(2) 主な意見等

<議題1>

- ・平成28年度から、地域運営組織の運営支援に係る地方財政措置が講じられるとのことだが、非常に画期的なことだと思う。
- ・地域運営組織の運営支援のための地方財政措置ができたことによって、これまで財政的な理由で地域運営組織への支援ができなかった市町村ができるようになり、全国的に広がることを期待したい。地域運営組織に対して一括交付金というかたちで補助している例があるが、そういう取組が普及するのではないか。
- ・平成27年度は新しい過疎計画を作成する年度であったが、平成22年度に過疎対策事業債がソフト事業に使えるようになって以降、2回目の計画である。従来との計画と違った傾向が見られるかどうか、分析してみるのも有意義ではないか。
- ・過疎地域の市町村でも、国勢調査の速報値で人口が増加している団体がある。ぜひ要因を分析してほしい。

<議題 2>

- ・人が新たなつながりをつくり、充実した地域生活がきちんと成り立つような環境整備が大切だ。人口減少の中で一回り大きいコミュニティでの付き合いが深くなれば、それが支え合いの新しい仕組みになる。そのために、どういう人材に活躍してもらうかや、人材の発掘、新たな役割分担が大事になってくる。また、地域には人々が集まる拠点となる場所が必要だ。
- ・集落ネットワーク圏や地域運営組織については、その意義を引き続き周知していくことが必要だ。
- ・個人単位で過疎地に新しい組織をつくる場合、代表的人材と事務的な能力を持った人材に加え、あともう一役必要だ。言い表すのは難しいが、面白さや楽しさを発信できる人が必要だ。
- ・地域運営組織では、男性だけでなく、女性ももっと活躍していくことが大切だ。
- ・「小さな拠点」や地域運営組織の形成に取り組んだ結果、地域がどのように変わったのかについて論じられる機会が少ないと思う。しかし、今回の報告書では、集落ネットワーク圏を形成した地域でどのような変化があったかについて、アンケート結果が載っており、興味深い。これまであまり集落活動に参加していなかった女性や若者層などの参画の機会が増えたという回答が見られるが、重要な成果と言える。
- ・地域運営組織の代表は男性であるが、実務の中心を担っている方には女性も多い。地域運営組織の実際が分かるおもしろい結果だ。
- ・地域運営組織に参加している団体について、公民館についても調査していたらもっと良かった。
- ・子どもが小さい頃から地域に関わりをもち、愛着を持ってもらうことが必要だ。その取組はある程度継続していくことが必要になる。大人になって都市に転出して、ふるさとに関心をもってもらえるようになる。

以上